

奈良墨



奈良墨は室町期に興福寺二諦坊で持仏堂の灯明の煤を集め、これに膠を混ぜてつくったのが始まりです。墨づくりは毎年10月中旬から翌年4月下旬までの寒期に行われ、全国の書道家、水墨画家等に対し、その需要の95%を供給しています。

お問合せ 奈良製墨(協) 奈良市北市中町48 ☎0742-22-4909
 (株) 呉竹 奈良市南京終町7-576 ☎0742-50-2050 (直販可)
 (株) 古梅園 奈良市権井町7 ☎0742-23-2965 (直販可)
 墨の資料館 奈良市六条1-5-35 ☎0742-41-7155 (直販可)

面



法隆寺、東大寺に現存する伎楽面・舞楽面などの優れた古楽面、室町時代に完成された能、狂言面が観賞用に作られたものです。パルプ、土、可塑性樹脂などを石膏型、シリコン型で製作するものあるいは天然木の桧・桐を使用し、仏像面や能面を製作する木彫面があります。

お問合せ 奈良県工芸協会 奈良市登大路町38-1 ☎0742-26-8839

地場 産品

日用衣料品や生活用品などの製造業が中心で、
 いずれも地域や人びとの暮らしと深く結びついています。
 大規模な事業所はありませんが、
 全国トップレベルのシェアを誇る製品も少なくありません。



編 レース

昭和初期、主として奈良名産の枕蚊帳、お膳おおいの装飾用として家内工業的に生産が始められ、戦後、ドイツの優秀な編み機の導入により、より高度な室内装飾や衣料用レースの生産が発達しました。現在、カーテン、テーブルクロス、のれんなど多様な製品づくりを展開しています。

お問合せ 奈良県編レース工業(協) 奈良市西九条町5-4-5 ☎0742-62-1181

衣料縫製品



大正12年頃中和地区においてエプロン、割烹着の縫製作業が始まり、動力ミシンの導入とともに昭和30年頃から対米輸出が行われるほどに発展しました。近年新しい製品づくりの方向が開かれ、ブラウス、ワイシャツ等ファッション性の高い製品が作られています。

【お問合せ】 奈良県布帛製品工業（協） 大和高田市幸町2-33 ☎0745-22-5000

靴下



明治43年頃現在の広陵町で農家の副業として輸入機による生産が始まり、昭和初期には国産の自動編み立て機、戦後のウーリーナイロンの開発により飛躍的な発展を遂げました。靴下の総合産地として、ソックス、タイツ、パンティーストッキングの国内生産においては高いシェアを誇っています。

【お問合せ】 奈良県靴下工業（協） 大和高田市幸町2-33 ☎0745-22-5000

織物・蚊帳



江戸中期に柳生で始まったといわれ、明治の頃には、大和蚊帳の代表となる綿蚊帳が作られ全国に広まりました。その製造技術は襖地、ガーゼ、農業用寒冷紗、建築用内壁生地等のほか、ふきん、書籍カバー等新しい用途に展開されています。

【お問合せ】 奈良県織物工業（協） 大和高田市幸町2-33 ☎0745-22-5000

ニット



江戸時代の手織り機による大和木綿の生産から、明治以降は機械化による肌着づくりが盛んになり、戦後の合成繊維の出現により一層の発展をみました。現在ではメリヤス生地や肌着類のほか、セーター、トレーニングウェア等デザインを重視した製品が作られています。

【お問合せ】 奈良県ニット（協） 大和高田市幸町2-33 ☎0745-22-5000

葛繊維製品



葛澱粉質を抽出したあとの繊維質と綿、絹の繊維をブレンドした混紡糸を使用し、草木染等の染色を取り入れ、自然の色や風合いを大切にしたい環境に優しい繊維製品です。

【お問合せ】 奈良県繊維工業（協）連合会 大和高田市幸町2-33 ☎0745-22-5000

染色



明治初期、奈良盆地で大和絁が織り始められた頃、藍染めを専門に行う「紺屋」が誕生し、その後メリヤス業が盛んになるにつれ、靴下やメリヤス生地の染色へと発展してきました。現在は、インテリア用、産業資材用、アパレル用等その用途は多岐にわたっています。

【お問合せ】 奈良県染色工業（協） 大和高田市幸町2-33 ☎0745-22-5000

製材・磨き丸太



日本最古の人工林の宝庫として、吉野地方では古くから製材業が盛んでした。また、室町時代の茶の湯の広まりと共に和風建築の適材として磨き丸太の生産が行われるようになり、本県では江戸時代末期の頃から始まり、明治20年頃に生産が本格的になりました。その後、床柱、床がまち等住宅の様々な部材に利用されるようになり、手入れの行き届いた光沢のある奈良県産は、最高級の柱として全国で定評があります。

【お問合せ】 奈良県木材(協)連合会 橿原市内膳町5-5-9 ☎0744-22-6281

集成材



昭和35年頃、日本で最初の商品として集成材が奈良県で作られ、昭和38年以後農林規格が制定されてから品質は向上し、接着剤の開発と接着技術の進歩等により急激に発展しました。建築の構造用部材、家具、工芸品等幅広い用途開発が進められています。

【お問合せ】 奈良県集成材(協) 桜井市大字生田686 ☎0744-46-3222

桐材加工



明治初期の頃、農家の副業として桐材加工が始まりました。軽くて丈夫な桐材の特徴をいかした家具や小箱類、琴の胴木、桐下駄の材料として使われ、現在では、東北地方や海外から輸入した桐の原木を加工し、大阪や西日本方面に多く出荷しています。

【お問合せ】 御所市観光振興課 御所市1-3 ☎0745-62-3031

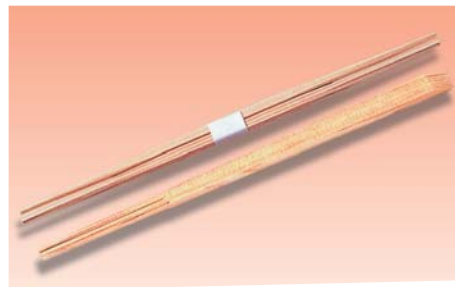
竹編み針



和服地の糊付け等に使われた伸子針の生産が盛んであった生駒高山では、大正時代中頃の毛糸の出現により、毛糸編み針を生産するようになりました。材料は、真竹、もうそう竹で、現在では、国内生産を独占するほどに成長し、ホビーブーム等の影響で今後ますます需要の伸びが期待されています。

【お問合せ】 奈良県編み針工業(協) 生駒市高山町4374-2 ☎0743-78-1777

箸



後醍醐天皇への献上物がその始まりとされていますが、産業としては江戸中期頃から始まり、明治になって本格的になりました。明治末には中溝をつけた「利久割箸」が考案され、大正時代には隆盛をきわめました。本県産の割箸は、材料に吉野産の杉・桧の端材を用いることに特徴があり、特に最高級の杉箸は高い評価を得ています。

【お問合せ】 吉野製箸工業(協) 吉野郡吉野町国橋100 ☎0746-36-6838
奈良県下市製箸(協) 吉野郡下市町下市125 ☎0747-52-8717

社寺瓦



中国から朝鮮の百濟を経て、飛鳥時代に日本に伝わったとされ、7~8世紀頃の寺院では、輸送の容易さから近くに瓦窯を築いたようです。良質の粘土に恵まれた奈良の瓦は焼きのしまった安定した品質で、全国の国宝級、重文級の社寺に多く使用されています。

【お問合せ】 奈良県瓦センター協業組合 天理市榎垣町738 ☎0743-66-0311

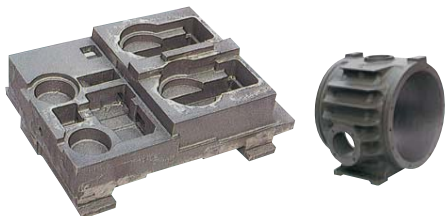
機械金属製品



明治初期までは農業用鋤、鎌の類から生活用品としての銅釜を主に作っていましたが、日清、日露戦争後他の地場産業に関連した機械が作られるようになりました。明治末期には工場形態の事業所も出現し、製品も多様化し、広範囲な分野の生産を行ってきましたが、最近では特に、超精密工作機械・デジタルAV機器・電子部品・携帯電話等の情報通信関連や自動車関連を中心として展開しています。

【お問合せ】 奈良県機械工業（協） 大和高田市幸町2-3-3 ☎0745-22-9081

鋳物



奈良時代、仏像、釣鐘等の製造技術をもった鋳物師達が中国から渡来し、奈良の大仏をはじめ、武器、祭器などを鋳造したのが始まりと考えられています。明治、大正の頃には、銅、釜、鋸などが主でしたが、昭和に入り機械用鋳物の鋳造が盛んとなり、現在では産業機械や工作機械の部材が主に生産され、一部伝統的な手法により釜等の生産も続けられています。

【お問合せ】 奈良県日中鋳物技術友好工業（協） 香芝市五位堂4丁目355-1 ☎0745-77-0748

プラスチック



昭和20年代後半から文房具や貝釘、歯ブラシ等の製造業者がプラスチックの出現により業種転換していったことに始まり、昭和40年代以降家電用部品や自動車部品、日用雑貨の生産により飛躍的に発展しました。最近では従来のイメージを一新した製品が次々と開発され、その一層の発展が期待されています。

【お問合せ】 奈良県プラスチック成型（協） 葛城市東室165-6 ☎0745-69-6125

毛皮



昭和20年代菟田野町（当時）において兎の皮を中心とした毛皮生産が始まり、昭和45年頃の若い女性を中心とした毛皮の需要の高まりと共に兎以外の毛皮の生産が始まりました。現在では、ミンク、フォックスなどの毛皮やレザーファッション、ムートンなどの高級インテリア、各種はく製など多様な製品が作られています。

【お問合せ】 奈良県毛皮革（協）連合会 宇陀市菟田野松井502 ☎0745-84-3143

鹿革・セーム革



菟田野地域は全国の鹿革生産シェアの90%を誇り、武道具用素材、衣料革用素材、漆で模様を施した印伝として、また蹴鞠にも鹿革が利用されています。セーム革は鹿皮を油ぬかした革で、何度も洗濯が可能で、レンズや眼鏡拭きとして多くの需要があります。

【お問合せ】 奈良県毛皮革（協）連合会 宇陀市菟田野松井502 ☎0745-84-3143

工業用手袋・安全保護具



昭和10年頃から皮革製品製造のかたわら、造船所、製鋼所等からの発注により本革製3本指型の手袋生産が始まり、その後、高度な皮革加工技術を背景に着実な発展を遂げ、現在に至っています。鋼板入り安全靴など近代産業の多様化に伴い、各々の作業に適した種々の保護具が作られています。単に体の保護の目的のみならず、作業効率向上の意味からも今後一層の発展が望まれる分野です。

【お問合せ】 奈良県保護具（協） 北葛城郡広陵町寺戸592-1 ☎0745-56-5777

紳士靴



明治29年から陸軍御用達の靴造りが始まり、大正から昭和にかけてはビジネスシューズの需要増大と共に生産力を強化し成長を遂げました。近年は、完成度の高い品質に加え消費者ニーズの多様化等に対応できる数多くの製品が作られています。

【お問合せ】 奈良靴産業（協） 大和郡山市小泉町2475-7 ☎0743-55-1288

サンダル



江戸時代の農家の副業として始まった草履の製造が明治20年頃産業化され、昭和25年にスポンジ草履の製造が始まってから、ゴム、ビニール草履へと生産が移行しました。その後プラスチックサンダルが製造されるなかで、特に映画「ローマの休日」におけるオードリー・ヘップバーン着用したサンダルから「ヘップサンダル」と呼ばれ、一層幅広く愛用されるようになりました。

【お問合せ】 奈良県履物（協） 連合会 御所市元町1-1 ☎0745-62-1288

軽装履



江戸時代に農家の副業として皮の鼻緒を作り始めたのが軽装履の前身と考えられています。明治以降もわら草履や下駄の鼻緒づくりが盛んになりましたが、昭和30年頃から下駄の需要の落ち込みにより軽装履が生産されるようになり、現在では国内生産シェアの約80%を占めています。また、草履の表に草を用いた軽装履が健康履として注目されています。

【お問合せ】 ミサト履物（協） 生駒郡三郷町立野北1-26-23 ☎0745-73-7822

グローブ・ミット



大正の中期、グローブ・ミットの製造技術が導入され、三宅町で生産が始まりました。その後野球の 대중化に伴い生産が飛躍的に増大し、現在では国内生産シェア80%以上を占めています。本県産のグローブ・ミットは高品質を誇っており、独自ブランドやオーダーメイドの受注など広く消費者ニーズに対応できるグローブ・ミットの生産に努めています。

【お問合せ】 奈良県スポーツ用品（協） 連合会 桜井市初瀬1593-1 ☎0744-47-7455

スポーツシューズ・スキー靴



靴造りの伝統技術がスポーツシューズの生産分野にも活況を呈し、野球用スパイクシューズを中心にジョギング、登山、サッカー、ゴルフ等スポーツの多様化に対応した多くの製品が作られています。特に、スキー靴はその品質、デザインにおいても高く評価されており、国内生産シェアの50%以上を占めています。

【お問合せ】 奈良県スポーツ用品（協） 連合会 桜井市初瀬1593-1 ☎0744-47-7455

貝釦・革釦・合成樹脂釦



本県では、明治の貝釦に始まり、戦後すぐに革釦の生産が始められました。その後、戦前の貝釦の生産体制を背景に、合成樹脂釦が著しく発展しました。現在では、アクリル樹脂、成型樹脂など近代感覚の素材が駆使されて、衣料のファッション化に即応した豊富なデザインで、需要を伸ばしています。また、貝釦・革釦は、種々のデザインが開発され高級衣料用として発展をとげ、本県は全国でも数少ない生産地となっています。

お問合せ 大和高田商工会議所(合成樹脂釦) 大和高田市大字大中106-2
☎0745-22-2201
川西町商工会(貝釦) 磯城郡川西町結崎217-1
☎0745-44-0480
橿原商工会議所(貝釦・革釦) 橿原市久米町652-2
☎0744-28-4400

製薬



奈良時代、唐僧鑑真が中国から医薬品を持参し施薬したのが発祥とされています。その後、薬の研究や教育がなされ、寺院などが育成して次第に民間へ配置薬として普及してきました。江戸時代末期には大和売薬として全国的に行商圏が広がり、第1次大戦後の全盛期には、朝鮮、台湾、インド、シンガポール、ハワイまで需要が広がりました。近年、配置薬が見直しされ、今後の発展が期待されています。

お問合せ 奈良県製薬(協) 御所市605-10 ☎0745-62-3754

金剛砂・研磨布紙



二上山山麓は金剛砂(ざくろ石)の産出地として知られています。天平の頃には金剛砂を用いて玉石を磨いたという記録があり、幕末にはめもの用の研磨材として販売されました。第1次大戦中から軍需品の精密器材用研磨材として発達し、現在は研磨布紙の材料として、また光学レンズ研磨材、ガラス加工用材、石材彫刻材等広範囲な用途開発がなされています。また焼物のうわ薬として使用され「ふたかみ窯」と呼ばれる新製品も開発されています。

お問合せ 金剛砂商工業(協) 香芝市畑442 ☎0745-76-1174

加工食品

漬け物などの伝統を誇るものから

乾燥食品、調味料、酒類にいたるまで、味も種類も多種多様。

たくさんの製品群はそのまま奈良大和路という

地域の持つ豊かさを示すものでもあります。

奈良漬・漬物



慶長年間、奈良市中筋町の医者米屋宗仙が白瓜を酒粕に漬けて作ったのが奈良漬の始まりで、大阪冬の陣に徳川家康に献じてから有名になりました。その他にも県内では特産品の梅・生姜を使った漬物も生産されています。

お問合せ 本場奈良漬協会 奈良市上三条町31 ☎0742-22-2415
奈良県漬物(協) 生駒郡平群町西宮2-12-36 ☎0745-45-0122